

当行（単体ベース）の営業の概況

2025年度中間期の営業の概況（2025年4月1日～2025年9月30日）

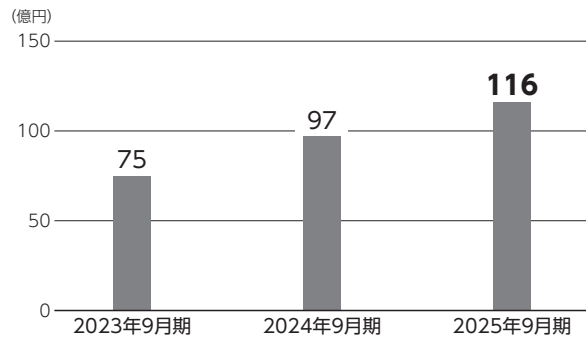
当中間期のわが国経済は、米国通商政策による影響が自動車産業を中心にみられましたが、設備投資は緩やかに持ち直し、個人消費は持ち直しの動きがみられるなど、景気は緩やかに回復しました。

地元香川県におきましても、設備投資が増加し、個人消費は緩やかな増加基調にあるなど、景気は全体として持ち直しました。このような経済環境のなか、当中間期の業績等は次のとおりとなりました。

コア業務純益（除く投資信託解約損益）

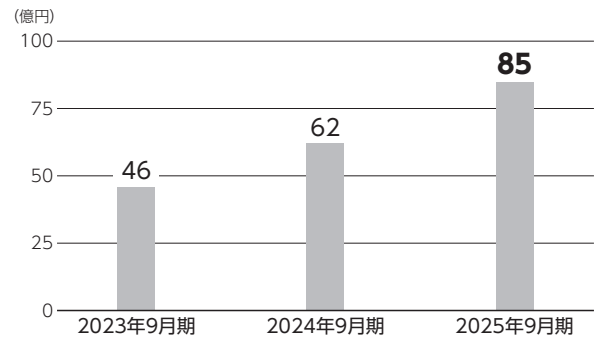
コア業務純益（除く投資信託解約損益）*は、貸出金利息の増加による資金利益の増加や、役務取引等利益の増加などにより、前年同期比18億円増加して116億円となりました。

*コア業務純益（除く投資信託解約損益）とは
銀行の本来業務からの利益を表す指標



中間純利益

中間純利益は、コア業務純益（除く投資信託解約損益）の増加や株式等関係損益の増加などにより、前年同期比22億円増加して85億円となりました。

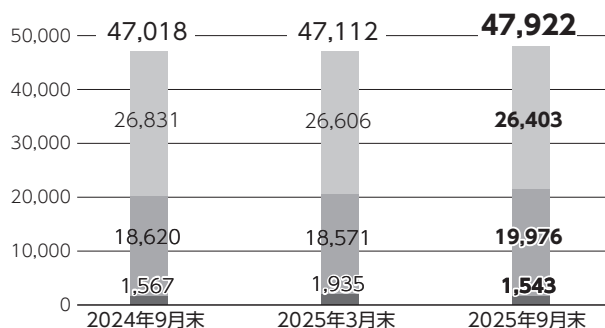


総預金・貸出金の残高推移

●総預金（預金＋譲渡性預金）

当中間期末の総預金残高は、公共及び個人預金が減少しましたが、法人預金が増加したことにより、前期末比810億円増加して4兆7,922億円となりました。

（億円） ■公共 ■法人 ■個人



●貸出金

当中間期末の貸出金残高は、法人向け、個人向け及び公共向け貸出金がいずれも増加したことにより、前期末比852億円増加して3兆5,980億円となりました。

（億円） ■公共 ■法人 ■個人

